

社会福祉を専攻する学生の一般的老人イメージと自己老人イメージ

—セマンティック・ディファレンシャル法を用いた老人イメージの分析—

高橋 一公

I はじめに

1. 日本人の老人観

日本人の老人観について考察する場合、高齢者がその社会の中でどのような位置づけがされているかを考えることが必要となる。言い換えれば、高齢者自身の身体的・精神的・社会的適応状態と、その高齢者が社会からどのような受け止め方をされているかという問題を捉えることの必要性を示唆している。

老年期は生理的な老化によって社会的・経済的な活動が低下し、社会的な自立性が奪われ、社会や他者への依存性を増大させるという高齢者の現実的な問題が生じる時期でもある。これらの問題について社会がどのように受け止めてきたかを知る資料として次のような一文がある。

「予 行路の次、歩道の間、径の辺途の傍に、一人の女人有り。

容貌顔けて、身軀疲瘦せたり。

頭は霜蓬の如く、膚は凍梨に似たり。

骨は竦ち筋抗りて、面は黒く齒黄めり。

裸形にして衣無く、徒跣にして履無し。

声振るひて言ふこと能はず。足蹇へて歩むこと能はず。

糲糧已尽きて、朝夕の喰も支え難し。

糠糶悉く畢へて、旦暮の命も知らず。」

(以下略、「玉造小野小壮衰書」 枋尾武 校注 29～30頁 岩波文庫)

これは、「予」（語り手の自称であり、空海と言われている）が路上で徘徊する老女に逢い、その老女との問答の出だしの部分である。さまざまな解釈があるようだが、これは美人の代名詞ともなっている“小野小町”の流転の人生を表したといわれる「玉造小野小壮衰書」の一節

である。老女の姿を表した部分から始まり、悲惨な人生と仏恩に感謝する気持ちがこの後詠われている。この老女の姿を示したこの部分は平安期の高齢者像を示したものと解釈できる。どんなに美を誇った者であっても歳とともに醜くなり、衰えな姿となっていく様を示したものと考えられ、当時の老人観を表している。

老人観は衰えの様を示すものだけではなく、その先にある「死」についての考慮も含んでいることはいうまでもない。逆に「生」への執着が否定的な老人観を生み出していったことが推察できる。人間の死の様相を「死体」の変化を通して記した「九相詩絵巻」などは、死体が腐乱し土に帰すまでの様子をリアルに示すことで、肉体へ執着することの愚かしさを知らしめようとする意図も含まれていたであろう。しかしあくまでも「死」の現象をとらえただけであり、当時の「真の死」は地獄・極楽の世界あったと考えられている。

一方、江戸時代の本草学者・儒学者である貝原益軒（1630-1714）は代表的な教育書「養生訓」のなかで、老年期を迎え、老年期を積極的に生きていくために必要な心得を残している。たとえば、

「人の身は百年をもって期とす。上壽は百歳、中壽は八十、下壽は六十なり。六十以上は長生きなり。世上の人を見るに、下壽をたもつ人すくなく、五十以下の短命なる人多し。（中略）短命なるは生まれ付て短きにあらず。十人に九人は皆みづからそこへるなり。ここを以て、人皆養生の術なくんばあるべからず。」

（「益軒養生訓」 第一巻 総論より 大澤一六 荻原星文館）

と人間の肉体的限界を100歳としているが「養生」の術を知らないと50歳にならないうちにこの世を去ると論じ、長生きするためには「慎むこと」を奨励している。この「養生訓」は益軒が84歳の時に彼自身の経験に基づいて書かれたと言われているものである。益軒は85歳という長寿を全うしたが、江戸時代後期の平均年齢が男性約21歳、女性約29歳（これには乳幼児の死亡率が大きく影響しており、成人した者の平均寿命は約60歳ぐらいであった）といわれている中ではかなり長生きをし、現役であり続けた人物であるといえる。おそらく当時の人々の感覚でいえば益軒の存在は当時の老人観を超越したものであったに違いない。

日本人における老人観は時代とともに変化してきた。前近代においては「老病は自然なり」の覚悟を持って老病と対峙し、老いや死は必然的なものとしてとらえられていた。近代に至っては「養老」の精神を掲げる者が多く、老人を敬愛の対象としてとらえていたようである（新村 1991）。しかし、現代では社会生活における依存性の増大によって高齢者の生活適応をネガティブにとらえてしまう傾向が強い。特に高齢者や高齢者問題に関心ないものは高齢者のイメージをネガティブにとらえる傾向がある（保坂、袖井、1988）。このように社会からの高齢

者に対するイメージが高齢者自身に影響を与えていることも否定できない。

2. セマンティック・ディファレンシャル法を用いた高齢者のイメージの研究

現代日本人の老人観に関する研究は「老人」のイメージ測定を通して行われているものが多い。保坂と袖井（1986）はセマンティック・ディファレンシャル法（以下SD法）を用いて大学生の老人に対するイメージの測定を試みている。その結果、大学生の抱く老人のイメージとしては、「あたたかい」「やさしい」という肯定的なものと、「弱い」「頑固な」という否定的なもの強く表れていると報告している。そして、大学生の抱く老人のイメージに対しては社会に対するネガティブ要因としての老人の存在を認識しながらも、高齢者に対して好意的・同情的な態度をとる大学生が多いとも論じている。さらに保坂と袖井（1988）は50項目からなるSD法を用いて高齢者のイメージの分析を試みている。その結果、大学生の抱く老人のイメージはどちらかという否定的であるとしている。因子分析の結果として「有能性」「活動・自立性」「幸福性」「協調性」「温和性」「社会的外向性」の6つの因子を抽出している。この6つの中で「有能性」と「活動・自立性」を老人のイメージを規定する重要な因子としてとらえ、大学生は「有能性」については肯定的な、「活動・自立性」については否定的な評価をしていると報告している。そしてこれらの因子に対して、老人問題に対する関心や学校教育の中での正しい高齢者に対する知識の伝達に代表されるように、若者がどのような情報に接しどのような姿勢で老人に接しているかが重要な規定要因になっているとも論じている。

小中学生を対象とした老人のイメージの研究では中野ら（1991、1994）のSD法を用いた研究がある。中野らは主成分分析を用いて「評価」因子と「活動性」因子を抽出している。そして小学生は両因子に対して肯定的に評価しているのに対して中学生は第2主成分の「活動性」についてやや否定的な評価していることを見出している。しかし、小中学生のイメージする「おとしより」は一般的に考えられているものよりも若く元気な「おとしより」をイメージした可能性が高いことも指摘しており、特に小学生が老人に対して肯定的なイメージを持つことは当然のことかもしれないと論じている。また老人のイメージを規定する要因として最も重要なものに「老人との過去の経験」をあげ、保坂らの老人のイメージを規定する要因としてあげた「老人との現在の交流」とは異なった結果を示している。いずれにしても幼少期の経験が老人のイメージ形成に重要であるという示唆は興味深いものである。

中高年の老人のイメージについては古谷野ら（1997）がやはりSD法を用いて測定を試みている。因子分析の結果、「力動性」「親和性」「洗練さ」という3つの因子を抽出し、いずれも肯定的な評価がされていることを報告している。しかし、「力動性」については女性より男性の方が、また高学歴者の方が否定的なイメージを持つ傾向が見られたことも論じている。これは保坂らの「有能性」と「活動・自立性」の因子において男子学生が老人に対して女子学生よ

りも否定的な評価していることとも一致した傾向としてとらえることができる。さらに古谷野らは、中野らの知見をふまえ、幼い時に肯定的であった老人のイメージが青年期に否定的なり、さらにその後、肯定的になっていく可能性についても言及している。

看護学生に対してSD法を用いて行われた大塚ら（1999）の老人のイメージに関する研究では、老人に対して看護学生は全体的に肯定的なイメージを持つことが報告されている。具体的には「暖かい」「尊敬できる」「思いやりがある」「やさしい」という項目で肯定的な評価がされ、「考えが古い」「頑固」「弱い」という項目で否定的な評価がされているとしている。さらに老人のイメージに深く関与していると思われる要因として「祖父母との会話の頻度」をあげ、老人看護教育において老人との会話を持てるようなさまざまな機会を提供することが必要であることを論じている。

高橋（2006）は介護福祉士、社会福祉士を目指す専門学校生、短期大学生、4年制大学生に対して形容詞対23項目からなるSD法を用いて高齢者のイメージの測定を試みている。その結果、高齢者の身体的な活動を連想させる項目はやはり否定なイメージが持たれていることが示されている。また、因子分析を用いて因子の抽出を試みた結果、「有能性」「活動性」「情緒性」「力量性」の4つの因子が抽出され、多くの先行研究の結果と類似した傾向が示されている。さらに社会福祉士を志向する学生と、介護福祉士を志向する学生間において「有能性」で有意差が示されている。これは実習等を通して高齢者との接触機会が多い介護福祉士志向の学生の方が高齢者の有能性を認める傾向があることを示唆している。また、交流頻度と老人イメージとの関係でも、主観的なものではあるが交流頻度が多いと考えている学生の方が、交流頻度が少ないと考えている学生よりも「有能性」と「力量性」を肯定的に評価していることが示されていた。このことから老人観に影響を与える要因として交流の頻度がやはり影響していることは否定できないようである。

大村（2007）は介護福祉専門学校生を対象にSD法を用いて高齢者に対する理想イメージと現実イメージが介護実習の前後でどのような変化が見られるのかを調査している。その結果、実習前の因子分析から「活動性」と「親近性」の2つの因子を抽出し、両因子とも理想イメージの方が肯定的であることを示している。さらに実習前後の比較においては実習後の現実イメージの「親近性」のみが肯定的に変化したことを導いている。このことから高齢者に対する肯定的なイメージを形成するためには、高齢者介護に対する知識の習得と高齢者との接触が重要であることを示唆している。

以上のような研究から老年観や老人のイメージに大きな影響を与えているもののひとつに高齢者との接触や交流の頻度をあげることができる。特に福祉教育や看護教育においては高齢者との交流が肯定的なイメージの形成に大きく貢献していることが示され、福祉教育、看護教育における実習や実践の重要性を示している。

II. 研究の目的

福祉の専門資格を目指す学生たちはどのような「老人観」を持っているのであろうか。今回の研究では介護福祉士養成コースあるいは社会福祉士養成コースに在籍する短期大学生、4年制大学生を対象に、学生がどのような「一般的老人イメージ」と、将来の自分自身についての「自己老人イメージ」を持っているのかをSD法を用いて比較・検討することを目的とする。

今回はあえて測定対象として「老人」という刺激語を用いている。「高齢者」の定義として「65歳以上」という客観的な基準が示されているが、「老人」という言葉は「何歳以上」という基準ではなく、それを捉える側の主観が強く反映されると考えられる。そのため、より主観的な側面からのイメージを測定するために「老人」という語を用いた。

III. 方法

1. 調査対象者

介護福祉士、社会福祉士などを目指す短期大学生、4年制大学生279名（男性83名 女性195名 無回答1名）。調査対象の学生は少なくとも10か月以上の専門教育を受けてきているものとした。平均年齢は19.45歳（標準偏差は0.666才）。

2. 調査方法

各大学ごとに集合方式で調査を実施した。実施時期は平成19年1月～7月で該当学年の学年末およびに学期末。イメージの測定は23対の形容詞対からなるSD法を用い、それぞれの形容詞対に5段階の評定尺度（非常に・やや・どちらともいえない・やや・非常に）を付して評価を求めた。また、「高齢者との交流経験」については「多い」「普通」「少ない」「わからない」から主観的な判断として回答を求めた。

IV. 結果

1. 一般的老人イメージと自己老人イメージの比較

「一般的老人イメージ」は全体的に肯定的な評価がなされていた（資料1

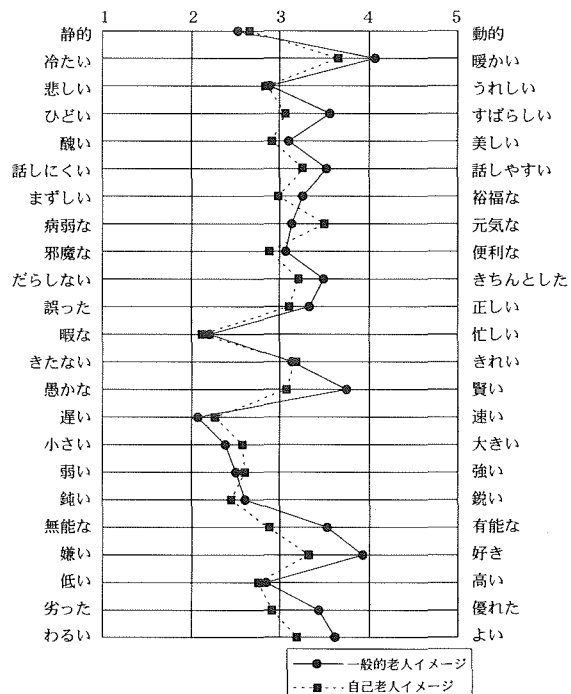


図1 「一般的老人イメージ」と「自己老人イメージ」のプロフィール

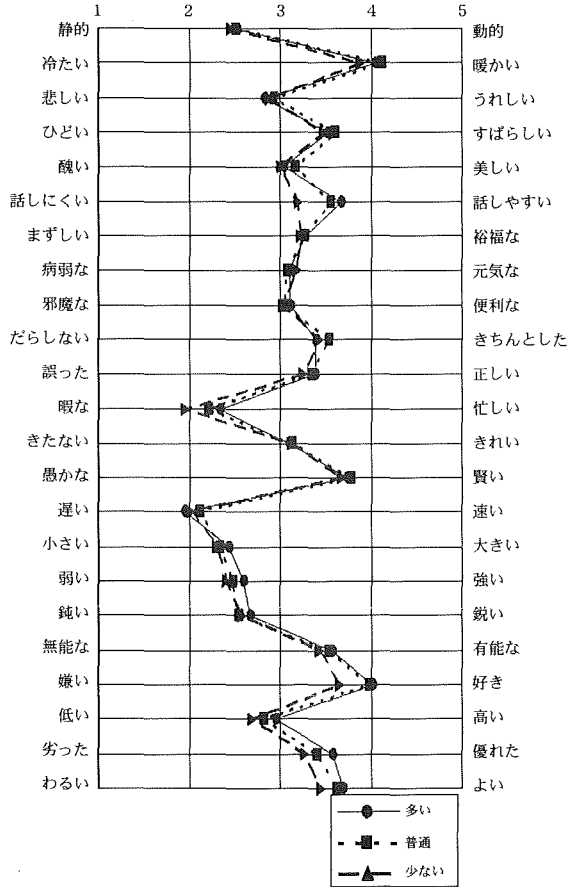


図2 交流頻度別「一般的老人イメージ」のプロフィール

図1参照)。特に「ひどい－すばらしい」「愚かな－賢い」「無能な－有能な」「劣った－優れた」などの知識・経験をイメージさせる項目で肯定的な評価がなされていた。しかし、「遅い－速い」「小さい－大きい」「弱い－強い」など活動性をイメージさせる項目ではいずれも否定的な評価がなされている。一方、「自己老人イメージ」は「一般的老人イメージ」よりも否定的な評価がなされていた(資料2 図1参照)。「醜い－美しい」「邪魔な－便利な」「無能な－有能な」「劣った－優れた」などの自己像や有能性をイメージさせる項目や、「遅い－速い」「小さい－大きい」「弱い－強い」などの活動性をイメージさせる項目では否定的な評価がなされている。

「一般的老人イメージ」と「自己老人イメージ」との比較では、「冷たい－暖かい」($t=6.429$ $df=278$ $p<0.000$)「ひどい－すばらしい」($t=-9.879$ $df=275$ $p<0.000$)「醜い－美しい」($t=-3.550$ $df=278$ $p<0.000$)「まずしい－裕福な」($t=-4.844$ $df=278$ $p<0.000$)「病弱な－元気な」($t=-5.488$ $df=278$ $p<0.000$)「邪魔な－便利な」($t=-4.582$ $df=278$ $p<0.000$)「だらしない－きちんとした」($t=-4.351$ $df=276$ $p<0.000$)「誤った－正しい」($t=-4.162$ $df=278$ $p<0.000$)「愚かな－賢い」($t=-11.990$ $df=276$ $p<0.000$)「無能な－有能な」($t=-11.490$ $df=278$ $p<0.000$)「嫌い－好き」($t=-10.358$ $df=278$ $p<0.000$)「劣った－優れた」($t=8.718$ $df=277$ $p<0.000$)「わるい－よい」($t=7.480$ $df=278$ $p<0.000$)などの項目において有意差が見られ、自己老人イメージの方が否定的な評価をしていることが示された。また、「遅い－速い」($t=-3.353$ $df=275$ $p<0.001$)「小さい－大きい」($t=-3.280$ $df=274$ $p<0.001$)に有意差が見られ自己老人イメージの方が肯定的な評価をしていることが示された。全般的に社会福祉を専攻する学生は「自己老人イメージ」の評価が低い傾向にあることも示されている。このことが

ら、活動性や稼働能力に関するものを除き、社会福祉を学ぶなかで肯定的な一般老人イメージを形成した反面、学生自身が自己の将来に漠然とした不安を感じ、否定的な自己老人イメージを形成していることが推測される。

2. 高齢者との交流経験の違いによる「一般的老人イメージ」と「自己老人イメージ」

「高齢者との交流経験」を「多い」「普通」「少ない」の 카테고리に従って3群に分けたところ、「多い」と回答したものは64名、「普通」と回答したものは160名、「少ない」と回答したものは49名であった（「わからない」と回答したものを除く）。この主観的な高齢者との交流経験のカテゴリに従って分散分析を試みた（資料3、4参照）。

「高齢者との交流経験」の違いによる「一般的老人イメージ」では「話にくい-話しやすい」(f=3.384 df=2 p<0.035)「暇な-忙しい」

(f=3.614 df=2 p<0.028)「嫌い-好き」(f=3.438 df=2 p<0.034)で有意差が見られ、交流頻度が多い群が肯定的な評価をしている（図2）。さらに、Bonferroni法による多重比較を行ったところ、「話にくい-話しやすい」「暇な-忙しい」のそれぞれの「多い」と「少ない」間に有意差が見られた(p<0.038, p<0.025)。

「自己老人イメージ」では「悲しい-うれしい」(f=5.885 df=2 p<0.003)「醜い-美しい」(f=5.362 df=2 p<0.005)「話にくい-話しやすい」(f=5.154 df=2 p<0.006)「誤った-正しい」(f=5.761 df=2 p<0.004)「嫌い-好き」(f=4.757 df=2 p<0.009)で有意差が見られた（図3）。「嫌い-好き」以外の項目で交流頻度が少ない群がいずれも否定的な評価をしている。さらに、Bonferroni法による多重比較を行ったところ、「悲しい-うれしい」「誤った-正しい」のそれぞれの「多い」と「少ない」、「普通」と「少ない」の間に有意差が見られ(p<0.006 p<0.006, p<0.002 p<0.030)、「醜い-美しい」「嫌い-好き」のそれぞれの「多い」と「少ない」間に有意差が見られた(p<0.004, p<0.007)。また、「話にくい-話しやすい」では「普

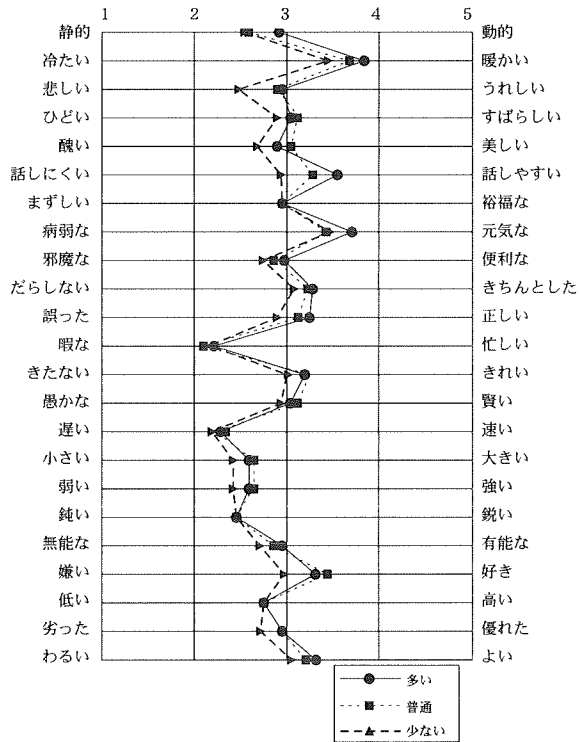


図3 交流頻度別「自己老人イメージ」のプロフィール

通」と「少ない」に有意差が見られた($p < 0.004$)。

「交流経験」別の「自己老人イメージ」には有意差が見られた項目が多く、交流頻度が「自己老人イメージ」の形成に影響していることが示唆された。

3. 「一般的老人イメージ」の因子分析

「一般的老人イメージ」に関する23項目から因子分析を用いて因子の抽出を試みた(主因子法、プロマックス回転による)。なお、「一般的老人イメージ」では共通性が低かった「貧しい-裕福」「邪魔な-便利な」「忙しい-暇な」の3項目を除いて分析を試みた。その結果、4因子が抽出された(表1)。第1因子は「有能性」で、高齢者の能力を評価するような項目で構

表1 一般的老人イメージの因子分析結果

項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
無能な/有能な	0.723926	0.122238	-0.08034	-0.10182
愚かな/賢い	0.623624	0.055567	-0.10581	-0.08614
劣った/優れた	0.582374	0.118335	-0.0027	0.146824
わるい/よい	0.564425	-0.05806	0.136406	0.015806
嫌い/好き	0.515985	-0.12212	0.291902	-0.0685
誤った/正しい	0.434908	-0.02418	-0.00212	0.135529
だらしな/きちんとした	0.301245	-0.07565	0.139853	0.140221
弱い/強い	0.021094	0.661145	0.03678	-0.0501
小さい/大きい	0.049011	0.639867	-0.06218	-0.02568
低い/高い	-0.06619	0.579739	0.173936	-0.01589
鈍い/鋭い	0.116043	0.402679	-0.00443	0.091536
冷たい/暖かい	0.072006	0.038326	0.59478	-0.20128
醜い/美しい	-0.20791	0.034686	0.591411	0.226091
ひどい/すばらしい	0.142505	-0.01207	0.571979	-0.05071
話にくい/話しやすい	0.092423	0.046572	0.505626	-0.05785
悲しい/うれしい	-0.03908	-0.04787	0.016806	0.547227
静的/動的	0.04751	0.002307	-0.13555	0.469079
きたない/きれい	0.33174	-0.10051	0.019768	0.440284
遅い/速い	-0.04245	0.286291	-0.11355	0.374441
病弱な/元気な	-0.06204	0.137371	0.254089	0.309077

因子抽出法：主因子法 回転法：Kaiserの正規化を伴うプロマックス法

成されている。第2因子は「力量性」に関する因子で、活動における力強さを示すような項目が中心となっている。第3因子は「親和性」に関する因子で、外見上のイメージや親しみやすさに関する項目が中心である。第4因子は「活動性」に関する因子で、外見に表れるような健康度を示唆したもので構成されていると考えられる。このように、福祉系大学生の持つ「一般的老人イメージ」は比較的肯定的な因子で構成されているといえる。

4. 「自己老人イメージ」の因子分析

「自己老人イメージ」に関する23項目から因子分析を用いて因子の抽出を試みた（主因子法、プロマックス回転による）。その結果、4因子が抽出された（表2）。第1因子は「有能

表2 自己老人イメージの因子分析結果

項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
きたない/きれい	0.877637	-0.02235	-0.20461	0.032805
愚かな/賢い	0.744983	-0.05969	0.054131	-0.10792
無能な/有能な	0.696331	0.01174	0.104647	-0.0493
だらしない/きちんとした	0.626434	0.095943	-0.27462	0.150662
劣った/優れた	0.593284	0.153672	0.134859	-0.04404
まずしい/裕福な	0.492918	0.05718	-0.03295	0.118308
誤った/正しい	0.471447	0.193646	0.013179	0.01122
冷たい/暖かい	0.011295	0.680676	0.078279	-0.14916
話にくい/話しやすい	-0.13515	0.679394	-0.09004	0.195531
ひどい/すばらしい	0.127908	0.622593	-0.16249	0.092746
醜い/美しい	0.025342	0.612634	0.283907	-0.12888
嫌い/好き	0.169267	0.557086	0.111943	-0.16225
悲しい/うれしい	-0.02787	0.550263	-0.04662	0.213439
邪魔な/便利な	0.222567	0.50085	-0.06386	0.022573
病弱な/元気な	-0.01671	0.47972	-0.02233	0.432327
わるい/よい	0.267564	0.395778	0.239772	-0.11064
小さい/大きい	-0.28442	0.02875	0.847917	0.088419
低い/高い	0.093134	-0.01982	0.61905	0.035914
弱い/強い	0.043517	0.005598	0.55061	0.327091
静的/動的	-0.09358	0.096611	0.056326	0.711504
遅い/速い	0.201615	-0.17783	0.38381	0.390916
鈍い/鋭い	0.282831	-0.07489	0.310041	0.32971
暇な/忙しい	0.031395	-0.05109	0.118124	0.322636

因子抽出法：主因子法 回転法：Kaiseの正規化を伴うプロマックス法

性」で、高齢者の能力を評価するような項目や親近性をイメージするような項目で構成されている。第2因子は「情緒性」に関する因子で、身なりや行動の正しさや有能性を示すような項目が中心となっている。第3因子は「力量性」に関する因子で、活動における力強さを示すような項目が中心となっている。第4因子は「活動性」に関する因子で、精神運動性やテンポを示唆したもので構成されていると考えられる。

福祉系大学生の「自己老人イメージ」は「一般的老人イメージ」同様に、肯定的な因子で構成されているといえる。また、「自己老人イメージ」においては、「有能性」や「情緒性」といった因子が上位となり、将来の自己像に内面的な特徴や、「話しにくい-話しやすい」「すばらしい-ひどい」など主観的な基準に基づくような評価が影響していることが示されている。

5. 高齢者との交流経験別「一般的老人イメージ」の比較

「一般的老人イメージ」の因子分析によって得られた因子得点を用いて、「高齢者との交流経験」の交流経験別カテゴリーに従って分散分析を試みた(図4)。その結果、第3因子「親和性」に有意差傾向が見られた($f=2.565$ $df=2$ $p<0.079$)。さらにBonferroni法による多重比較を行ったところ、第3因子「親和性」では「普通」と「少ない」との間に有意差傾向が見られた($p<0.076$)。

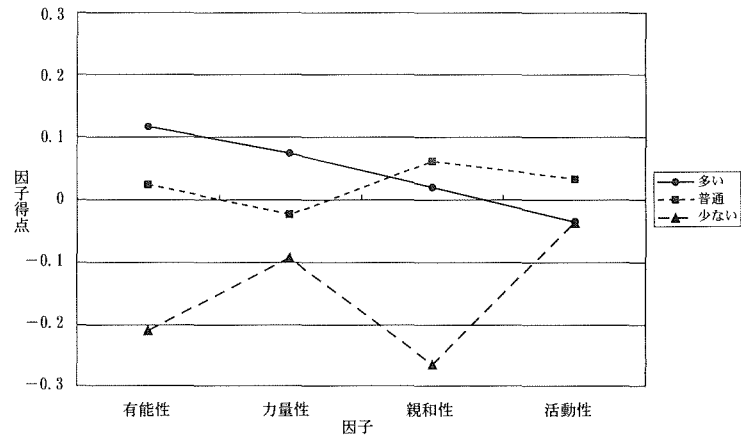


図4 交流経験別「一般的老人イメージ」因子得点

6. 高齢者との交流経験別「自己老人イメージ」の比較

自己老人イメージ」の因子分析によって得られた因子得点を用いて、「高齢者との交流経験」の交流経験別カテゴリーに従って分散分析を試みた(図5)。その結果、第2因子「情緒性」に有意差が($f=5.455$ $df=2$ $p<0.0048$)、第1因子の「有能性」に有意差傾向が見られた($f=2.949$ $df=2$ $p<0.0541$)。さらにBonferroni法による多重比較を行ったところ、第1因子「有能性」では「多い」と「少ない」との間には有意差傾向が見られ($p<0.596$)、第2因子の「多い」と「少ない」、「普通」と「少ない」との間には有意差が見られた($p<0.0069$, $p<0.0113$)。

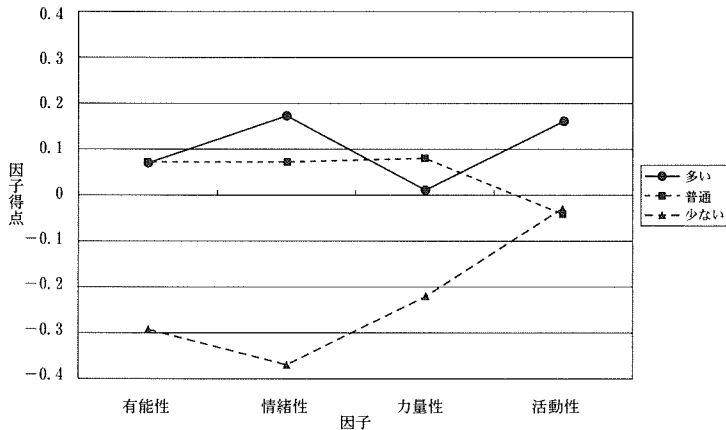


図5 交流経験別「自己老人イメージ」因子得点

V 考察

1. 一般的老人イメージと自己老人イメージの比較から

今回の調査対象者は介護福祉士あるいは社会福祉士の資格取得を目指す学生であり、また、実際に社会福祉領域の講義の受講歴もある学生である。当然のことながら一般的な大学生の老人イメージを示したものではない。高齢者の実像や高齢者福祉の問題をある程度認識した学生の老人イメージとなる。このことから理解できるように「一般的老人イメージ」は知識・経験をイメージさせる項目を中心に肯定的な評価がなされていた。しかし、活動性をイメージさせる項目ではいずれも否定的な評価がなされていた。これは高齢者に対する客観的な評価がなされていることを意味し、身体的活動性を中心とした加齢による衰えを捉えつつも、知的活動性などは高く評価した結果であると考えられる。

「自己老人イメージ」は「一般的老人イメージ」よりも否定的な評価がなされている傾向が見られた。特に有能性や活動性をイメージさせる項目では否定的な評価がなされていた。その反面、身体を健康をイメージさせる項目では肯定的な評価がなされていた。このことは非常に興味深い。以下の「一般的老人イメージ」と「自己老人イメージ」の比較のところでも述べるが社会福祉を専攻する学生の将来像に対する不安を反映したものと考えられる。高齢者に対する客観的な情報に講義等を通して接触することにより、現代の高齢者の有能性や活動性を高く評価した結果、「自己老人イメージ」に対する厳しい評価につながったのではなかろうか。将来、自分たちが、現代の高齢者のような有能性を所有することに対して、自信を持つことができない、あるいはその自身がないことが捉える。

「一般的老人イメージ」と「自己老人イメージ」間の比較では、結果で述べた通り、多くの項目で有意差が見られ、「自己老人イメージ」の方が否定的な評価をしていることが示され

た。これは「自己老人イメージ」が単に否定的な傾向が示されているという問題だけではない。「ひどい－すばらしい」「醜い－美しい」「だらしない－きちんとした」「愚かな－賢い」「無能な－有能な」「劣った－優れた」「わるい－よい」など外見的な評価において「自己老人イメージ」より「一般的老人イメージ」が高い評価がされていることから理解できるように、現代の高齢者の筋の通った立ち振る舞いや身嗜みを評価したものと考えられる。これは社会福祉を専攻する学生が社会福祉を学ぶなかで、あるいは高齢者に接することで、高齢者自身から多くのことを学び取っていることの現れではないかと考えられる。反面、学生自身が自己の将来に漠然とした不安を感じ、将来、現代の高齢者のような生活スタイルを受け継ぐことができるかどうかという自信の欠如によって、否定的な自己老人イメージを形成していることが推測される。

2. 高齢者との交流経験の違いによる「一般的老人イメージ」と「自己老人イメージ」から

「高齢者との交流経験」の違いによる「一般的老人イメージ」では「話しにくい－話しやすい」「暇な－忙しい」「嫌い－好き」で有意差が見られ、交流頻度が多い群が肯定的な評価をしていることが示された。「一般的老人イメージ」では主観的に評価された高齢者との交流頻度によってイメージに大きな差が認められるとはいえない。

「一般的老人イメージ」に対して、「自己老人イメージ」では「悲しい－うれしい」「醜い－美しい」「話しにくい－話しやすい」「誤った－正しい」「嫌い－好き」で有意差が見られ、交流頻度の多少が「自己老人イメージ」の評価や形成に影響していることが示された。さらに交流頻度の少ない群が否定的な「自己老人イメージ」を持つことが示されていることから、福祉教育や高齢者との交流などを通して得られた老人の否定的な情報に交流経験が少ないグループの「自己老人イメージ」に影響を及ぼす可能性も否定できないと考えられる。

一般学生との比較ではないため社会福祉を専攻する学生の特徴としてとらえることには限界があるが、社会福祉を専攻する学生は、一般的に肯定的な「一般老人イメージ」と、否定的な「自己老人イメージ」を形成する傾向があるのではなかろうか。また、老人イメージに影響を与える要因として主観的な接触頻度を示すものではあるが、「高齢者との交流経験」が影響していることは否定できないようである。

3. 「一般的老人イメージ」と「自己老人イメージ」の因子分析の結果から

「一般的老人イメージ」の因子分析の結果、4因子が抽出された。第1因子は「有能性」、第2因子は「力量性」、第3因子は「親和性」、第4因子は「活動性」であった。福祉系大学生の持つ「一般的老人イメージ」は「有能性」や「力量性」といった因子が第1因子、第2因子を形成し、かなり肯定的な評価がなされているといえる。また、「自己老人イメージ」の因子

分析の結果、4因子が抽出された。第1因子は「有能性」、第2因子は「情緒性」、第3因子は「力量性」、第4因子は「活動性」であった。福祉系大学生の「自己老人イメージ」は「一般的老人イメージ」同様に、かなり肯定的な評価がなされているといえる。ただし、「一般的老人イメージ」と異なり、「情緒性」といった因子が上位となり内面的な要素を強く反映した結果となっている。

「一般的老人イメージ」、「自己老人イメージ」ともその因子構造は類似しているといえる。また、「老人」のイメージを構成する因子としては、保坂と袖井（1986）や古谷野ら（1997）の先行研究に見られる結果と共通した因子が抽出されている。しかし、「一般的老人イメージ」において第3因子に「親和性」が抽出され、「親しみやすさ」の関心が外面に向けられているのに対して、「自己老人イメージ」では第2因子の「情緒性」が抽出され、「親しみやすさ」の関心が内面に向けられている。このように因子を構成する項目としては非常に類似しているものの微妙な「一般的老人イメージ」と「自己老人イメージ」の違いが示されている。

4. 高齢者との交流経験別「一般的老人イメージ」と「自己老人イメージ」の比較から

「一般的老人イメージ」の因子分析によって得られた因子得点を用いて、「高齢者との交流経験」の交流経験別カテゴリに従って分散分析を試みた結果、第3因子「親和性」に有意差傾向が見られた。特に交流経験が少ないグループの「親和性」の得点が低く、交流経験の程度が高齢者に対する「親しみやすさ」に影響を及ぼしていることが示されている。有意差は見られなかったが、第1因子の「有能性」についても交流経験の程度と因子得点が比例しており、経験が少なくなるほど「有能性」を低く評価している傾向が見られている。さらにすべての因子において交流経験が少ないグループの因子得点が低かった。これらのことから、「一般的老人イメージ」に主観的な交流体験が影響を与え、交流経験が増えることで高齢者に対するイメージも肯定的な方向に上昇する傾向があることが認められる。

「自己老人イメージ」の因子分析によって得られた因子得点を用いて、「高齢者との交流経験」の交流経験別カテゴリに従って分散分析を試みた結果、第2因子「情緒性」に有意差が、第1因子の「有能性」に有意差傾向が見られた。いずれの因子も交流経験の少ないグループの因子得点が低いことから、交流経験の少なさが「一般的老人イメージ」と同様に、「自己老人イメージ」を否定的な方向へ影響を及ぼしていることを示唆している。特に第2因子の「情緒性」についてはその傾向が顕著であり、交流経験が少ないグループの評価の低さが際立っている。想像の域を出るものではないが、この傾向は単に自己の将来像をイメージしたものだけではなく、現代の学生の対人関係に対する不安を反映しているのではなかろうか。高齢者に対する交流頻度が少ないと評価している学生は、高齢者のみならず、すべての対人関係に希薄さを感じている可能性も捨てきれない。「自己老人イメージ」についても高齢者との主観的

な交流経験が影響を与え、交流経験が増えることで高齢者に対するイメージも肯定的な方向に上昇する傾向があることが認められる。

VI 結論

社会福祉の専門資格を目指す学生の「老人イメージ」の特徴として、「一般的老人イメージ」が「自己老人イメージ」と比較して肯定的なイメージを持つことが示された。これは少なくとも福祉教育によって高齢者に対する客観的な視点を持つことによって示されたものと考えられる。今回、調査対象としなかったその他の学問領域の学生との比較ではないため、この結果をそのまま福祉教育の影響として捉えることは難しい。しかしながら、一般的な高齢者の諸能力を高く評価する側面も示されていることを考えるならば、教育の効果を考えなければならない。

また、主観的なものではあるが高齢者との交流体験が高齢者イメージに影響を及ぼし、交流経験の増加が高齢者イメージを肯定的に方向へ導くことが示された。これは福祉教育における実習などを通じた高齢者との交流体験が重要であることを示唆している。福祉教育において高齢者に対する若齢者にイメージを改善していくためには、実際の交流体験の増加が効果的であるという可能性を示したものと考えられる。

謝辞

この研究は東京未来大学教授田中マユミ先生との共同研究の一部をまとめたものです。ご指導・ご助言いただいた田中先生に心から感謝いたします。

参考文献

- 藤田綾子 2000 高齢者と適応 ナカニシヤ出版
- 古谷野亘 児玉好信 安藤孝敏 浅川達也 1997 中高年の老人イメージ -SD法による測定- 老年社会科学、18 (2)、147-152.
- 保坂久美子 袖井孝子 1988 大学生の老人イメージ -SD法による分析- 社会老年学 27、22-33.
- 保坂久美子 袖井孝子 1986 大学生の老人観 老年社会科学 8、103-116
- Kimmel, D.C. 1990 *ADULTHOOD AND AGING*. New York: John Wiley & Sons, Inc. 加藤義明 (監訳) 1994 高齢化時代の心理学 プレーン出版
- 中野いく子 1991 児童の老人イメージ -SD法による測定と要因分析- 社会老年学 34、23-36.
- 中野いく子 冷水豊 中谷陽明 馬場純子 1994 小学生と中学生の老人イメージ -SD法

による測定と比較— 社会老年学 39、11-22

尾形和男（編著） 2003 これからの福祉心理学 北大路書房

大村壮 2007 介護経験による高齢者に対する理想イメージと現実イメージの変化についての考察；介護福祉専門学校生における介護実習の影響 高齢者のケアと行動科学 12(2)、20-27.

大塚邦子 正野逸子 日野瑞枝 日浦瑞枝 白井由里子 1999 看護学生の老人のイメージ—SD法によるイメージの評価と描画特徴とを中心に— 老年看護学 4(1)、98-104.

大澤一六 1934 益軒養生訓 荻原星文館

新村拓 1991 日本における老人観と死生観の変遷 老年精神医学雑誌、2(8)、986-991.

杉山善朗 1994 老年期のストレスと心理 老年精神医学雑誌、5(11)、1325-1332.

橘寛勝 1971 老年学 誠信書房

高橋一公 2006 福祉を専攻する学生の老人のイメージ—セマンティック・ディファレンシャル法を用いた老人のイメージの測定— 身延山大学仏教学部紀要、7、133-146.

枅尾武（校注） 1994 玉造小野小壮衰書 岩波書店

谷口幸一（編著） 1997 成熟と老化の心理学 コレール社

資料 1

一般的老人イメージ基礎統計量

項目	度数	平均値	標準偏差
静的/動的	279	2.494624	0.808547
冷たい/暖かい	278	4.057554	0.718701
悲しい/うれしい	278	2.884892	0.701511
ひどい/すばらしい	276	3.561594	0.743341
醜い/美しい	279	3.09319	0.604471
話にくい/話しやすい	278	3.52518	1.014914
まずしい/裕福な	279	3.240143	0.726949
病弱な/元気な	279	3.107527	0.97223
邪魔な/便利な	279	3.053763	0.487961
だらしない/きちんとした	277	3.487365	0.749893
誤った/正しい	279	3.322581	0.717128
暇な/忙しい	279	2.200717	0.760443
きたない/きれい	278	3.107914	0.609085
愚かな/賢い	277	3.736462	0.788876
遅い/速い	276	2.061594	0.692697
小さい/大きい	275	2.370909	0.828699
弱い/強い	278	2.496403	0.852891
鈍い/鋭い	279	2.580645	0.873131
無能な/有能な	279	3.512545	0.808467
嫌い/好き	279	3.917563	0.811571
低い/高い	278	2.830935	0.738459
劣った/優れた	278	3.417266	0.800715
わるい/よい	279	3.598566	0.765815

資料 2

自己老人イメージ基礎統計量

項目	度数	平均値	標準偏差
静的/動的	279	2.634409	1.18247
冷たい/暖かい	278	3.647482	0.90217
悲しい/うれしい	278	2.830935	0.872885
ひどい/すばらしい	276	3.050725	0.653076
醜い/美しい	279	2.910394	0.726576
話にくい/話しやすい	278	3.248201	1.091275
まずしい/裕福な	279	2.971326	0.772203
病弱な/元気な	279	3.487455	0.966537
邪魔な/便利な	279	2.867384	0.678798
だらしない/きちんとした	277	3.202166	0.914217
誤った/正しい	279	3.107527	0.625519
暇な/忙しい	279	2.125448	0.878622
きたない/きれい	278	3.154676	0.736733
愚かな/賢い	277	3.075812	0.720829
遅い/速い	276	2.26087	0.880532
小さい/大きい	275	2.574545	0.898543
弱い/強い	278	2.600719	0.928257
鈍い/鋭い	279	2.455197	0.969295
無能な/有能な	279	2.849462	0.767312
嫌い/好き	279	3.308244	0.863927
低い/高い	278	2.744604	0.771484
劣った/優れた	278	2.888489	0.791524
わるい/よい	279	3.172043	0.772136

資料 3

高齢者との交流経験別「一般的老人イメージ」の基礎統計量

項目	交流	度数	平均値	標準偏差
静的/動的	多い	64	2.515625	0.816344689
	普通	160	2.5125	0.80084468
	少ない	49	2.448979592	0.792181179
	合計	273	2.501831502	0.800388426
冷たい/暖かい	多い	64	4.046875	0.824807577
	普通	160	4.10625	0.650078612
	少ない	49	3.87755102	0.780828968
	合計	273	4.051282051	0.720707504
悲しい/うれしい	多い	64	2.828125	0.767487914
	普通	160	2.925	0.659235311
	少ない	49	2.87755102	0.725507095
	合計	273	2.893772894	0.696417867
ひどい/すばらしい	多い	63	3.523809524	0.839683943
	普通	159	3.591194969	0.72228397
	少ない	49	3.469387755	0.680136041
	合計	271	3.553505535	0.742802924
醜い/美しい	多い	64	3.03125	0.665922203
	普通	160	3.15	0.606049171
	少ない	49	3	0.540061725
	合計	273	3.095238095	0.610941323
話にくい/話しやすい	多い	64	3.671875	0.97678916
	普通	160	3.55	1.008142947
	少ない	48	3.1875	1.065039206
	合計	272	3.514705882	1.019986934
まずしい/裕福な	多い	64	3.265625	0.648372505
	普通	160	3.25625	0.72897684
	少ない	49	3.224489796	0.797530201
	合計	273	3.252747253	0.721417211
病弱な/元気な	多い	64	3.09375	1.003466215
	普通	160	3.06875	0.965583051
	少ない	49	3.183673469	0.92811344
	合計	273	3.095238095	0.96543919
邪魔な/便利な	多い	64	3.109375	0.594076247
	普通	160	3.0375	0.417953986
	少ない	49	3.020408163	0.558636581
	合計	273	3.051282051	0.489905645
だらしない/きちんとした	多い	62	3.387096774	0.732273323
	普通	160	3.525	0.743525513
	少ない	49	3.428571429	0.763762616
	合計	271	3.47601476	0.744346833
誤った/正しい	多い	64	3.375	0.678466993
	普通	160	3.33125	0.697902293
	少ない	49	3.244897959	0.778101649
	合計	273	3.326007326	0.70706869

暇な/忙しい	多い	64	2.328125	0.836748953
	普通	160	2.2	0.680362464
	少ない	49	1.959183673	0.734823779
	合計	273	2.186813187	0.736327651
きたない/きれい	多い	63	3.095238095	0.640420369
	普通	160	3.125	0.590810125
	少ない	49	3.12244898	0.599744844
	合計	272	3.117647059	0.602072969
愚かな/賢い	多い	64	3.734375	0.821191305
	普通	159	3.761006289	0.741697672
	少ない	49	3.673469388	0.826331126
	合計	272	3.738970588	0.7742796
遅い/速い	多い	64	1.953125	0.652946618
	普通	158	2.113924051	0.713604679
	少ない	48	2.020833333	0.668105716
	合計	270	2.059259259	0.692637467
小さい/大きい	多い	64	2.4375	0.940702203
	普通	159	2.333333333	0.751931409
	少ない	49	2.306122449	0.82168733
	合計	272	2.352941176	0.810716159
弱い/強い	多い	64	2.59375	1.034619016
	普通	160	2.46875	0.784454904
	少ない	49	2.408163265	0.788415271
	合計	273	2.487179487	0.849318776
鈍い/鋭い	多い	64	2.671875	0.926757233
	普通	160	2.5375	0.882303304
	少ない	49	2.571428571	0.735980072
	合計	273	2.575091575	0.867532468
無能な/有能な	多い	64	3.5625	0.833333333
	普通	160	3.51875	0.816279911
	少ない	49	3.428571429	0.763762616
	合計	273	3.512820513	0.809423197
嫌い/好き	多い	64	4.015625	0.863587708
	普通	160	3.96875	0.796390244
	少ない	49	3.653061224	0.751415897
	合計	273	3.923076923	0.812097446
低い/高い	多い	64	2.953125	0.824807577
	普通	160	2.8125	0.683935155
	少ない	48	2.6875	0.74822485
	合計	272	2.823529412	0.732808911
劣った/優れた	多い	64	3.578125	0.812690759
	普通	159	3.396226415	0.8114596
	少ない	49	3.265306122	0.757614408
	合計	272	3.415441176	0.806008678
わるい/よい	多い	64	3.6875	0.906326967
	普通	160	3.6125	0.726735615
	少ない	49	3.448979592	0.70890833
	合計	273	3.600732601	0.770503687

資料4

高齢者との交流経験別「自己老人イメージ」の基礎統計量

項目	交流	度数	平均値	標準偏差
静的/動的	多い	64	2.921875	1.312995938
	普通	160	2.54375	1.115059155
	少ない	49	2.612244898	1.187018789
	合計	273	2.644688645	1.18280387
冷たい/暖かい	多い	64	3.828125	0.968629985
	普通	159	3.679245283	0.798104992
	少ない	49	3.448979592	0.980247088
	合計	272	3.672794118	0.880034125
悲しい/うれしい	多い	64	2.96875	0.991531603
	普通	159	2.905660377	0.801836917
	少ない	49	2.469387755	0.793253869
	合計	272	2.841911765	0.863790253
ひどい/すばらしい	多い	63	3.047619048	0.727979338
	普通	160	3.1125	0.614167125
	少ない	49	2.897959184	0.549427655
	合計	272	3.058823529	0.634374561
醜い/美しい	多い	64	2.890625	0.818771583
	普通	160	3.0125	0.634317342
	少ない	49	2.632653061	0.808647986
	合計	273	2.915750916	0.725233915
話しにくい/話しやすい	多い	64	3.546875	1.180928979
	普通	160	3.275	0.990203587
	少ない	49	2.897959184	1.140995508
	合計	273	3.271062271	1.081157794
まずしい/裕福な	多い	64	2.9375	0.814062905
	普通	160	2.9875	0.735338881
	少ない	49	2.918367347	0.862088904
	合計	273	2.963369963	0.775625221
病弱な/元気な	多い	64	3.71875	0.899183933
	普通	160	3.41875	0.961339965
	少ない	49	3.469387755	0.98111418
	合計	273	3.498168498	0.955343109
邪魔な/便利な	多い	64	2.984375	0.766194213
	普通	160	2.875	0.60136114
	少ない	49	2.693877551	0.7417345
	合計	273	2.868131868	0.673153103
だらしない/きちんとした	多い	64	3.28125	1.015260542
	普通	160	3.21875	0.851723189
	少ない	49	3.081632653	0.996592835
	合計	273	3.208791209	0.917755617
誤った/正しい	多い	64	3.25	0.690065559
	普通	160	3.11875	0.564927501
	少ない	49	2.857142857	0.6770032
	合計	273	3.102564103	0.627577641

暇な/忙しい	多い	64	2.21875	0.933822151
	普通	160	2.10625	0.836260582
	少ない	49	2.102040816	0.962741268
	合計	273	2.131868132	0.881285715
きたない/きれい	多い	64	3.203125	0.819982336
	普通	160	3.19375	0.658728287
	少ない	49	3	0.816496581
	合計	273	3.161172161	0.729898323
愚かな/賢い	多い	63	3.031746032	0.822432544
	普通	160	3.1375	0.619266151
	少ない	49	2.93877551	0.826845493
	合計	272	3.077205882	0.711991844
遅い/速い	多い	64	2.28125	0.916666667
	普通	160	2.29375	0.865821128
	少ない	49	2.142857143	0.889756521
	合計	273	2.263736264	0.880781298
小さい/大きい	多い	64	2.578125	1.004824671
	普通	158	2.639240506	0.861182378
	少ない	48	2.395833333	0.868835938
	合計	270	2.581481481	0.899622819
弱い/強い	多い	64	2.609375	1.063345835
	普通	159	2.660377358	0.8774978
	少ない	49	2.408163265	0.887843064
	合計	272	2.602941176	0.927476533
鈍い/鋭い	多い	64	2.4375	0.957427108
	普通	160	2.475	0.944697216
	少ない	49	2.469387755	1.082089815
	合計	273	2.465201465	0.969989793
無能な/有能な	多い	64	2.9375	0.940702203
	普通	160	2.86875	0.683331416
	少ない	49	2.673469388	0.746875578
	合計	273	2.84981685	0.764185675
嫌い/好き	多い	64	3.3125	1.052208562
	普通	160	3.4125	0.80397988
	少ない	49	2.979591837	0.7497165
	合計	273	3.311355311	0.871389185
低い/高い	多い	64	2.765625	0.849690653
	普通	160	2.75625	0.715918507
	少ない	49	2.734693878	0.836049994
	合計	273	2.754578755	0.768298293
劣った/優れた	多い	64	2.953125	0.862438174
	普通	160	2.9375	0.724134704
	少ない	49	2.673469388	0.87530364
	合計	273	2.893772894	0.790382014
わるい/よい	多い	64	3.296875	0.920312016
	普通	160	3.18125	0.671728035
	少ない	49	3	0.866025404
	合計	273	3.175824176	0.775451575

【キーワード】 社会福祉専攻学生

一般的老人イメージ

自己老人イメージ

セマンティック・ディファレンシャル法